



## **AET2**

### **Asian and Middle Eastern Studies Tripos, Part II**

---

Monday 1 June 2020, 09.00 to 14.00

---

**This is a three hour examination**

## **Paper J5**

### **Modern Japanese texts 2**

Answer **all** sections.

Type your number **not** your name as well as the paper code (J5) on the first page of your submission.

### **SPECIAL REQUIREMENTS TO BE SUPPLIED FOR THIS EXAMINATION**

*Student declaration form*

### **SUBMISSION REQUIREMENTS**

*Type your answers and upload them in a document, such as a Word document or PDF.*

*Files should be saved as J5\_[your number].*

*Upload a completed student declaration form as a separate file.*

**The exam will begin as soon as you open the file containing the questions. Once begun you will have three hours to complete the exam.**

## Section A

(1) Translate the following passage from an **unseen** text into **English**. [35 marks]

### 一

### 生活の構造とは何か

(1) ある男性の一日

「生活には構造が存在する」とはどういう意味か、とりあえず具体的な例をあげて説明しよう。ここに一人の中年男性がいる。仮にF氏とよぶ。このF氏に対象者になってもらって、彼の日常生活を観察することにする。一日中、朝起きてから夜

Question 1 continues...

床に就くまで、F氏に影のように付き添って彼の行動を観察する。その際、「いつ」「どこで」「誰と」「何をしたか」という四項目からなるリストをあらかじめ作っておいて、そこにF氏の行動を逐一記録しておく。一日だけでなく、次の日も、その次の日も、雨の日も風の日も、観察を続ける。そうやってしばらく観察を続けていくと、F氏の行動のパターンというものがしだいに見えてくる。たとえば、平日の朝は七時に起きるが、土曜と日曜は九時頃まで寝ているとか、昼食は同僚と会社の近くの蕎麦屋かラーメン屋でとることが多いが、給料日前になると社員食堂を利用するようになるとか、火曜と木曜は残業をすることが多く、金曜の夜は同僚と麻雀を楽しむとか、……そういったことがわかるようになる。つまりF氏の生活には、「いつ」「どこで」「誰と」（一人の場合もある）「何をする」ということに関して、言い換えると、「時間」「空間」「他者」「行動」という四つの要素（変数）の組み合わせに関して一定の規則性があるということである。このことこそ「F氏の生活には構造が存在する」ということにはかならない。そしてこのことはひとりF氏の場合に限った話ではない。主婦AさんにはAさんの、大学生B君にはB君の、入院患者C氏にはC氏の、囚人二十八号には二十八号の生活の構造がある。生活の構造は人によって違う。しかし、構造が存在するという点は共通である。

(2) 構造化した生活

要するに私たちの日常は同じようなことの繰り返しであるということだ。しかし、もちろん昨日と今日が判で押したようにまったく同じであるはずがない。「生活には構造が存在する」ということは、同じような行動パターンが一定の間隔で繰り返して日常生活のなかに出現するということを意味している。通常、私たちは明日の生活、朝起きてから夜床に就くまでの自分の行動について、気象予報士が明日の天気を予測するのと同じ程度の確かさで、予想することができる。これは私たちに予知能力があるからではなく、私たちが自分の生活の構造について知っているからである。もし生活に構造が存在しなければ、それはさぞかし不安定な、あるいはドラマチックな毎日であることだろう。なにしろ朝、目が覚めて、これからどんな一日が始まるのか自分でもまったく予測ができないのであるから。それはまるで記憶喪失者が冒険小説の主人公のような生活といってよいだろう。私たちがそうした人物に憧れるのは、とりもなおさず私たちが構造化した毎日を送っているからにほかならない。

## Vocabulary (question 1)

逐一	separately, one by one, respectively
蕎麦	soba
麻雀	Mah-jongg (game)
変数	variable
囚人	prisoner
間隙	split, gap, crack, break
さぞかし	so, indeed

## Section B

(2) Read the **unseen** text carefully and answer the following questions in **English** in as much detail as you can (take content from the text only): **[35 marks]**

外国人記者が日本の文化や思想を海外に紹介した記事を読んでよく思うのは、彼らはどれだけの知識を持って日本を語っているんだろうかということです。すべてとまでは言いませんが、その知識に独断と偏りが見られるため、時として日本人にとって不快に感じる紹介文をよく目にします。これは逆に日本人記者が海外を紹介するときにも指摘される問題にもなりますが。

大手メディアの記者でも、観光程度に見聞きした知識で感想文のような文化紹介の記事を書いたりします。中には三歩下がって三つ指ついて夫を支える、献身的な日本人女性を批判するような記事もあって、そんな時代錯誤なイメージで日本を語られたときはさすがに呆れました。

外国人を集めて討論させる番組も同じです。その多くはステレオタイプの日本人像に対し、意見したり批判を繰り返すものです。彼らはいくら滞日期間が長いとはいえ、日本の教育機関で学び、日本の風習の中で育ったわけではありません。

ですから、日本を熟知していない外国人の意見としては、参考にはなりますが、それを比較文化論としてまともに取り上げるにはあまりにも浅く、アドバイスとしてとても納得できるものではありません。むしろその程度の知識で日本を否定されると、不快でしかありません。

このように外国人とのディベートを展開するうえで、日本人は発言する外国人が「親日」か「反日」かということをとてにも気にします。日本人にとっては意見を聞く前に、まず相手がどんなスタンスであるか知っておくことが重要なんです。それによって相手の意見に対して構えたり、反論の手段を練るのです。それは日本人がディベートを意見の交換の場としてではなく、感情論で相手を論破するバトルと捉える傾向にあるからかもしれません。



Question 2 continues...

私は番組出演前に、演出家からやたらと「バトルしてくださいね！」とプレッシャーをかけられるので、困ってしまいます。

私は誰かを罵倒<sup>ばとう</sup>したり喧嘩するのが目的で問題提起や意見をしているわけではありません。その証拠に、意見には意見で返しますが、その人物の人格否定をするような罵<sup>のの</sup>りを口にすることはありません。

ツイッターでも私のツイートを反論リプライをもらうことがありますが、その中には言葉が汚かったり、私の意見ではなく私の容姿やバックグラウンドに対して否定するものもあります。その程度の意見で議論を続けようとする姿勢に、驚いてしまいます。

そもそも日本人にとって「親日」とは何でしょう。

「日本が好きです」とアピールすれば親日なのでしょう。それなら私も今まで多くの親日外国人に会いました。でも、日本の何をもって好きなのか聞くと、具体的な答えが返ってきません。それは、日本が好きだとしても、日本に対しての親しみがないからだと思います。親日の「親」は親しみ。親しみとは仲間意識を持つことや、触れ合うこと。心の交流があって初めて感じるのだと思うのです。

だから日本を好きでいてくれるのは喜ばしいですが、「日本好き」とは言っても「親日」とはまたちょっと違うと思います。また親日的な感情というのは、日本に滞在した年数に比例して増すというものでもないと思います。長く日本に暮らしているからといって、親日になるとは限らないということです。

Vocabulary (question 2)

偏り	bias, prejudice
時代錯誤	anachronism
構える	to ready oneself (i.e. in a fight)
罵倒する	to verbally abuse, disparage, criticise
喧嘩	けんか



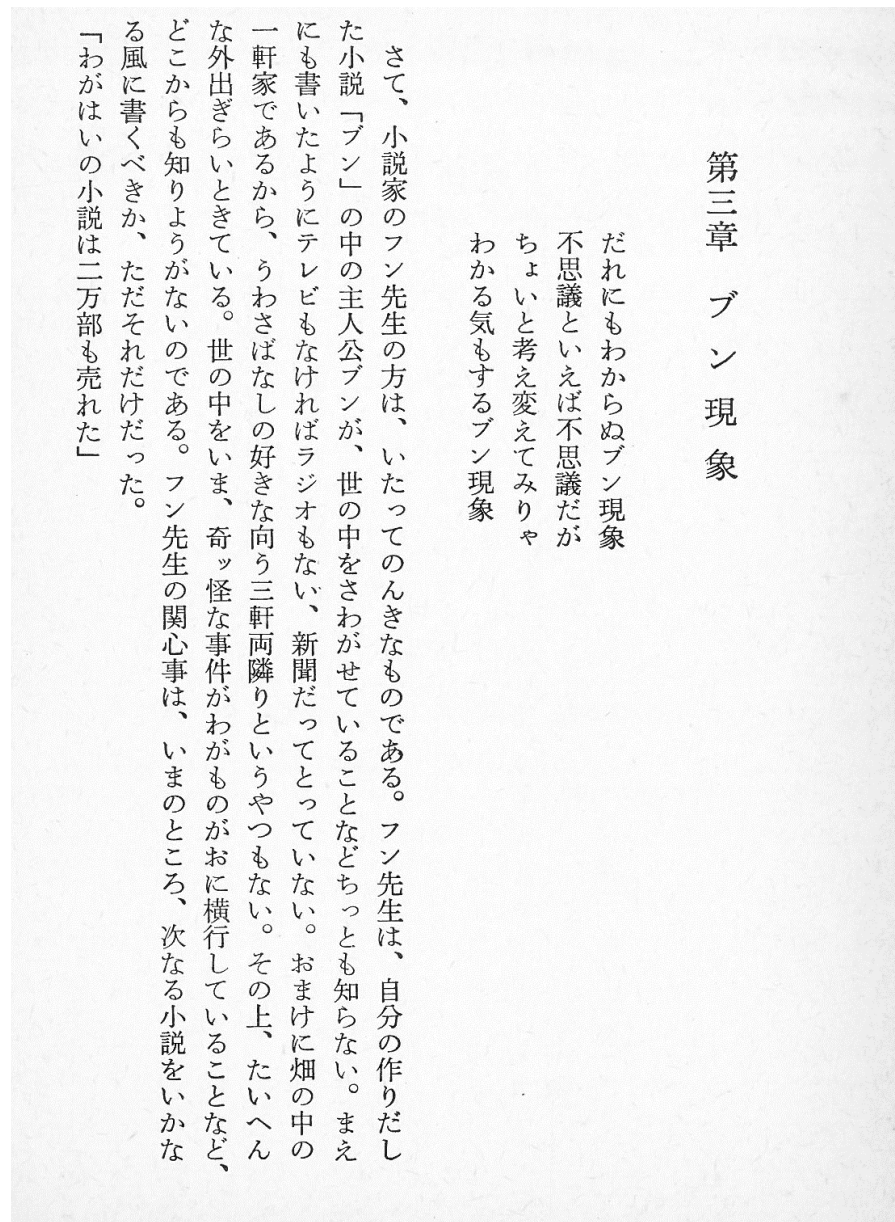
Question 2 continues...

- 1) What does the author often think when reading foreign media reports on Japanese culture? **[6 marks of 35]**
- 2) What does the author accuse the mass media of doing? **[5 marks of 35]**
- 3) In the author's view, what are the problems with TV debates among foreigners? For what kind of viewer might these programmes have some value? **[6 marks of 35]**
- 4) What does the author claim that Japanese people do before asking someone's opinion? **[5 marks of 35]**
- 5) What kind of pressure does the author face before appearing on Japanese TV programmes? How does she perceive her role? **[6 marks of 35]**
- 6) The author claims that Japanese viewers divide foreigners into *shinnichi* and *hannichi*. How would you translate these terms? How does the author define the meaning of *shinnichi* to Japanese people? **[7 marks of 35]**

## Section C

(3) Translate **ONE** of the two following passages from **seen** texts into English. [30 marks]

### Passage A



渋茶をすすりながら渋いカオをして、フン先生は考えた。

「わがはいは墮落<sup>だらく</sup>しつつある。ひじょうにあぶないところにおちこんでいる。わがはいの小説はこれまで、ひとが読もうとしないところにそのよさがあったのだ。それが『ブン』を二万部も読むひとがいるとは、なんといいかないことであろうか。小説のあらすじや文章のどこかに、ひとにこびたり、ひとの機嫌<sup>きげん</sup>をとったりするようなところがあったのではあるまいか」

フン先生は、ふと図書館の貸出し係のインテリお婆さんの顔を思い浮かべた。

「あのお婆さんに『読んでおります』といわれたとき、わがはい、うかつにもよろこんでしまつたが、わがはいが、ほんとうの小説家なら、あるとき、あのお婆さんを、はりたおすべきではなかっただろうか。『わがはいの小説を読むなど、思い上がるのもいいかげんにしろ!』と、どなりつけてやるべきだった」

フン先生は、いきなり右手で空中をなぐりつけた。てのひらのなかに季節外れ<sup>はず</sup>の蠅<sup>はえ</sup>が一匹、もがき苦しんでいた。フン先生には、なんの芸もない。ただ大メシをくらうことと、まわりでうるさくとびまわる蠅<sup>すずめ</sup>を素手<sup>すて</sup>でつかみとることが、ずばぬけて上手<sup>じょうず</sup>であつた。もつとも四十年間、ゴルフもマージャンもパチンコもやらず、テレビも映画もお芝居<sup>み</sup>も観<sup>み</sup>ず、ただ、机の前にすわって、まわりをとびまわる蠅<sup>はえ</sup>どもとにらめっこしてくらしていれば、だれだって、蠅<sup>はえ</sup>ぐらいつかみとれるようになるが……。

第十段

昔、男がいなかった。

わはは。これはちよつと斬新<sup>ざんしん</sup>である。

男がいなかったのだから、その男にまつわる物語もない。  
だから何もなし。

というのは芸が浅いと世の人が口々に言いたてるであらうぞよ。

男はいなかったが、女はいたのである、とやるのは卑怯<sup>ひきょう</sup>である。それなら、昔、ある女  
がいた、と書けばいいからである。

だから、こういうこう。

昔、男がいなかったので、その、いなかった男としては非常に心もとない気持で都に住  
んでいた。近所の人に会っておじぎをしても、（その男はいないのだから）みんなが無視  
するのである。これは大層寂しいことである。

Question 3 Passage B continues...

そこで、そのいなかった男は、現実には存在しない理想の女性を空想で作りあげ、その女に次のような歌を送った。

雨土のほどけさせし唐衣<sup>からぎも</sup>  
あればあらねど島の松原

「これはこれは、あなたほど美しい女性は、やっぱりこの世に本当にあるはずがないでしょうね」

この歌を見た、この世にあらぬ女は次のような歌を返事によこした。

「何も言えませんか。だって私はいない人間なんですもの」

という、実になんともはや、シュールなとかむちゃくちゃなというか、行き詰まっ

Section 3 Passage B continues...

で出鱈目<sup>たらめ</sup>をやってしまったなあ、というような話になってしまったわけである。

しかし、古典の現代語訳というのは、どうしてみんなあんなに変な文章なんでしょう。いや、話をそらそうとしているのではないのであるけれど。

高名な作家の翻訳などはそれはもちろん素晴らしい文学作品なのだが、学生が学習の参考を読む訳本などは実にもつてとてつもない文章で、読んでも物語の内容がいつこうにはつきりしないことが多いのは、どうしたものであろう。それでいいのだろうか。いやいやよくはない。

でも、そんな偉そうなことを言うよりも、こういう下らないものを書き続けるのは早くやめたほうがよいと（世間の人も思うであろうから）、他の古典の例にならい、この文章も唐突に終るのであった。

あやうこそ、ものぐるほしけれ。

END OF PAPER